

# 2023年度入試 合格体験記

慶應義塾大学商学部商学科

鈴木龍也  
(Iコース・深谷市立幡羅中学)

## 「遠回りをしてもいい」

僕は遠回りをして慶應義塾大学に合格しました。入学して最初に書いた志望校は慶應でしたがその後は高校3年生の夏まで国立大学を志望していました。結果としては慶應・早稲田どちらも合格することができました。しかし模試でA判定をとったことも学年1位になったこともありません。合格の1つの要因は諦めなかったことです。諦めずに最後までという言葉はよく聞くと思うし、響くようなことではないと思います。それでもこのことを実行できる人は少ないです。受験をして1番感じたことは諦めないことは難しいということでした。

受験生活を振り返ると僕の遠回りは高校受験から始まっていたと思います。農大三高は第1志望校ではありませんでした。それでもこの学校に入ったことを後悔はしていません。Iコースの5, 6時間目の自由選択制を初めとする農三の生徒に時間を与えてくれる方針によって華々しい結果で受験を終えることができました。この合格体験記を農大三高生やこの学校を受験しようとしている中学生やそのご両親などがご覧になることがあると思います。この学校の偏差値帯で勉強に関して自由に使える時間を与えてくれる学校は珍しいと思います。その点において難関大学合格の為の環境は整っているので、後は皆さんの努力次第です。無理をし過ぎずに頑張ってください。応援しています。

慶應義塾大学経済学部経済学科

八木志道  
(一貫コース・附属中)

## 「空即是空 空即是色」

私の高校時代は部活に入ることもなく、勉強のみをやり続ける三年間でした。勉強をして自分の視野を広げるという志からそのようにしていました。近年インターネットが発達してさまざまなことが個人でもできるようになり、学校の勉強に意味があるのかという疑問を持つ人もいるかもしれません。しかしながら、英語・数学・理科をはじめとした高校で学ぶ前提知識があつてこそ、散らばったネットの情報を自分の知として得られると私は考えます。自分の視野を広げるということを目的としていたため、世界は経済を中心に回っているという考えのもとで経済を学べば世界が理解できると思い、大学の学部は経済学部を選択しました。志望する大学と学部は高校1年の12月に決めたため、一般的な学生と比べて早く受験に向けてスタートすることができました。

自分の目標を決めた後は、その実現に向けてどのように動くかを考えることが必要になります。私の場合、まず塾に入るか否かを考えました。一般的に大学受験生は塾に入ることが必要だと思う人もいるかもしれませんが。しかしながら、たいした意志も持たずになんとなく塾に入れば勉強のモチベーションが続かないため、自分自身に本当に塾が必要なのかを考えることが私は必要だと思います。考えた結果、自分のスタイルには塾が合わない判断し塾に入らないことを決めました。塾に行かない分、塾に行く受験生と比べて自分が有効に使える時間が大幅に増えたため、その点で私は有利になったと思います。塾に行かないため、自分の勉強すべきことは自分で決めなければいけません。その際に、学校の先生やインターネット、漫画「ドラゴン桜」などを参考にして自分の勉強スタイルを確立させました。自分の勉強スタイルは最終的に基礎に重点を置くものとなりました。英語で言えば文法、数学で言えば公式です。これらは声に出して暗記するのも良いと思いますが、私は実践から身につくと考えて英語は英文和訳や英作文、数学はひたすら問題演習を繰り返していました。これらをこなすとなると、やはり早く始めるに越したことはないと思います。受験は一般的に高校3年生になってからと安直に考えることなく、やはり自分で何が必要かを考える主体性が必要になります。私は比較的早く動き出したため、高3の夏休みまでには基礎が固まり、夏休みから受験期にかけてはひたすら過去問に取り組むことができました。

最後に受験期の話になります。やはり誰も不確定な未来には不安を抱きます。私も自分ならできると信じていたものの、自分は受かるのかという不安と、入試日が近づいてくる焦りに襲われました。ここで私はあえて自分のペースを落としてみました。なぜなら不安や焦りに駆られて勉強をすればするほど、そこにはこれだけやれば良いという限界はないため、余計に不安が生じると考えたからです。その不安が入試当日の緊張を増すことにつながれば、本来の自分自身の力を発揮できないため最悪です。そのため最後の受験期には自分のこれだけは絶対にやっておいた方が良さだろうという問題をやったり、忘れていそうな公式を思い出したりすることだけに私は時間を使いました。これらのことを地道にこなした結果、私は無事に慶應義塾大学経済学部合格できました。これから大学を目指す農大三高生は決して私が述べたことや世間で一般的なことに囚われず、自分にとって最善だと思うことを選択し、常に自分自身を向上させる主体性を持ち続ければ自分の目指す大学に絶対に合格できると私は思っています。

# 2023年度入試 合格体験記

中央大学法学部法律学科	福田宥 (一貫コース・附属中学)
<p style="text-align: center;">「受験において大切なもの」</p> <p>大学受験において一番大切なものとは何でしょうか?志望校に行きたいという気持ちでしょうか?それとも使う参考書や勉強方法でしょうか?私は勉強に対する「愛」だと考えています。私は約三年間の受験勉強を通して勉強を苦だと感じたことはほとんどなく、むしろ高校生活のなかで喜びを感じる時間の一つでした。つまり、勉強に対して愛を持って楽しめば良いということです。しかし、勉強を楽しめといきなり言われても難しいと感じる人が少なくないでしょう。そこで私のおススメは何か一つ得意科目をつくることです。私の場合は日本史でした。私は普段の定期テストのときに力を入れて勉強した日本史で高得点を取ることができ、そこからこの教科を極めたいと思うようになりました。そうすると日々の授業が興味深いものとなり、気が付くと自分で本を買って読むほど好きなものになっていました。一度学ぶことが好きになると様々な事柄に関心が向くようになり、他教科の学習も意欲的に取り組むことができるようになると思います。私はこうして得た勉強に対する「愛」が1~2月の直前期を助ける最後の推進力となりました。</p> <p>大学受験の中で得た学力は私たちの人生を豊かにしてくれるものです。皆さんが単なる受験のためだけではなく、一生モノの知識を身につけ、第一志望の大学に合格することを心より願います。</p>	

慶應義塾大学法学部法律学科	山本宗一郎 (一貫コース・附属中学)
<p style="text-align: center;">「ハビトゥスを解き放つ入試」</p> <p>高校2年生の二学期から総合型選抜で慶應に進学することを決意し、現在は一部上場企業CEOを含めた6名の経営者から投資を受け、事業を運営しつつ病院と中小企業の経営課題に関わっている山本宗一郎です。慶應進学を決意する前は、留学をしていましたが平凡な日々を過ごしていました。</p> <p>この文章を通して、未来の受験生に志望理由を書く前に必要な基礎体力作りを紹介させていただきます。大学とは学術の中核として、社会発展のために教育する場であり研究する場のため、A0入試も一芸入試ではありません。研究者としての素質、授業についていけるポテンシャルを評価されます。評定、英検、文化資本、感性…できるだけ水準を上げることが重要です。</p> <p>しかし、定期テストの勉強と違い、何から勉強すれば良いか分からなかったり知的格闘能力を身につけていくことは大変難しいでしょう。初めは、各学問分野の色眼鏡を通して1984やPSYCHO-PASSなどのSF作品を観たり、図書室で紹介されている本を借りたりして、アカデミアに触れてみましょう。</p> <p>上記の文の矛盾になりますが、英検と評定さえあれば上智やGMARCHに受かる場合も多々あります。一般受験で国立大学を目指す生徒も夏の間に確約を得られれば心の支えになると思います。A0入試のみを受ける生徒は勉強方法が体系化されていない分、不安も多いと思いますが、A0入試を通じて知的想像を楽しみましょう!社会で活躍できる素地が得られるはずです!</p>	

# 2023年度入試 合格体験記

立教大学経済学部経済学科

吉田知広  
(Ⅱコース・鴻巣西中学)

## 「合格のために」

私はただ漠然と MARCH に入りたいと思っていました。その結果、青山学院大学経済学部と立教大学経済学部を合格しました。その上で2つ大事だと思った事があります。

1つ目は、英語力です。ほとんどの大学では英語が重視されます。特に青山学院大学経済学部では英語に足切りがあり、立教大学では英語(英検)で合格が左右されると思います。2年次では英語を集中的に勉強をして3年次の春には単語集、文法・イディオム問題集を完璧(約7周)にしました。その為、10月の英検準1級を目指すにあたっては春頃から準1級の単語帳に手をつけることができ、2次では先生方に面接の練習をひたすらしてもらい取得できました。また、英語力を確かめる為に中間期末試験ではあえて試験勉強をせずに問題を解き、解けなかった所を復習するという方法をしていました。

2つ目は、環境と気持ちです。Ⅱコースは推薦組と一般組で分かれます。一般組は推薦組に気持ちが釣られてしまったり、不安になったりもします。その為、私は同じ MARCH 志望の人だけをみてライバルと思い込んでいました。また、私立受験においては模試で E 判定を取っても気にしないことが大切です。さらに、疎かにする期間もありましたが、なんとしてでも MARCH に合格しないとこの先ないと逆に自分を不安にさせ、焦らせることによって勉強せざるを得ない状況にしました。この方法は周りとは関係なく自分との闘いなのでおすすめです!

これから模試や定期テストで点数や順位が悪いと落ち込むこともあるかもしれませんが、しかし、志望校には相性もあります。ですからあまり気にせず自分を信じて行きたい大学を目指して諦めずに頑張ってください!応援してます!

学習院大学文学部英語英米文化学

宮澤瑛士  
(Ⅱコース・桶川西中学)

## 「ライバルの存在と息抜きの大切さ」

私が受験について考え始めたのは高校1年生の頃でした。私は自分自身がプレッシャーに弱いのを知っていたため、将来の自分が少しでも楽をできるように指定校推薦を目標に定期テストを特に重要視して勉強していました。しかし1年生の頃はあまり勉強に身が入らず、クラスでの順位も平均的なものでした。それが変わったのは2年生に上がったときでした。ある友人とテストの点数で勝負するようになり、相手に負けれないと言う気持ちで授業により集中するようになり、テスト3週間ほど前から放課後に残って一緒に勉強するようになりました。お互いが敵というわけではなく、高め合っていくライバルのような関係であったので意欲的に勉強に取り組めたのはとても良い経験であったと思います。

3年生になると、必修に加え希望者受験の模試などが増え、受験に必要な書類なども自分で用意して提出しなければならないなど受験生だなと実感していきました。本番に向けての勉強をしていく上で自分が意識していたのは途中途中の息抜きです。どうしても周りの人と進路の話などをしていくと自分の学力に不安が出てきて、もっと勉強をしなければと思い詰めてしまうことがありました。そう言う時には意識して休憩し、気分をリフレッシュさせてあまりストレスを感じずに勉強に取り組めるようにしました。皆さんも受験のプレッシャーでストレスを感じることもあるかもしれませんが自分なりの息抜きであまり気負わずに勉強をしていくのが良いと思います。

# 2023年度入試 合格体験記

東京理科大学工学部工業化学科

寺澤 虎伯  
(Ⅱコース・志木市立志木第二中学)

## 「自分に合った勉強法」

私は入学時から指定校推薦で大学に進むことを視野に入れていました。一般受験になったとしても対応できるように高校一年生の春から予備校に週2,3回通っていました。高校二年生の夏から勉強へのやる気が高まり、週5回くらい塾に通っていました。しかし、私は高校二年生の夏で思ったように上手く勉強が進みませんでした。原因は質です。とにかく勉強をすることが大事と浅はかな考えをしていては、成績はあまり上がらないということを痛感しました。そこで私は高校一年生になってからその時まで培ってきた勉強を振り返り、質を高める努力をしました。勉強を始める前にネットなどでいろんな勉強法を見て、さらにそれまでの経験から自分で工夫して取り組んでいました。そうすることで一気に成績が上げることができました。勉強の質を上げるためにはまず量をこなすことが大事だと思います。自分に見合った勉強法はそう簡単に見つかりません。だからこそ時間をかけて様々な勉強法を試し、一番しっくりくるものを貫き通せばいいと思います。私は高校三年生の夏休みでも10時間という長い時間集中して勉強することは困難でした。私は6,7時間程でひたすら集中して勉強する法が断然継続できました。無理に長時間勉強して、休んでしまう日を作るくらいなら短時間で質の良い勉強をした方が合理的だと思います。

指定校推薦を取りたい人は、高校三年生の夏休み明けにある実力判定テストを目標に勉強を頑張ってください。日々の学校の勉強と模試に対しての勉強をしっかりと行っていれば取れるはずです。学校の内申があまり良くなくても実力判定テストで逆転できる可能性も大いにあります。最後までめげずに頑張ってください。

将来に繋げるための勉強を悔いなく行ってほしいです。友人と切磋琢磨して合格を目指してください。応援しています。

立教大学経営学部国際経営学科

石井伶奈  
(Ⅱコース・滑川中学)

## 「七転び八起き」

私が受験勉強において大切だと思うことは、題名の意味である「多くの失敗にもめげずその度に奮起して努力する」ことです。

立教大学は英検のスコアか共通テストの点数が英語のテストの点数になり、入試当日は国語と選択科目なので、私はまず英検に力を入れて勉強しました。2年の秋に最初の準1級を受けました。何回受けてもそう簡単に合格できず、毎日リスニングで英語を聞き、過去問10年分を5周ほど回し、3年の夏の5回目でやっと準1級を取る事ができました。この時、諦めずに最後までやり続ければきっと第1志望校に合格できると思いました。

また、11月から始めた赤本では50から60点くらいで到底、合格点に及ばない点数で不安でした。しかし、何度も過去問を解き、自分なりに過去問を分析して試験当日は絶対大丈夫と自信を持って挑むことができました。

そしてもう1つ、大切なことは部活を最後まで頑張ることです。私は、陸上部に所属し、11月の駅伝の関東大会まで練習を続けていました。正直、この時期まで部活をやり、入試に間に合わせる事が出来るか、とても不安でした。しかし、最後まで部活をやり抜き、目標だった関東大会に出場できたことでしっかりと勉強に気持ちを切り替えることができました。私にとってこの経験が受験勉強の1つのモチベーションだった気がします。

受験勉強は、1人では乗り越えることができません。家族、部活の仲間、先生方の支えがあって初めて合格できると思います。可否の結果はもちろん大切ですが、受験の意味は人としての成長にあると思います。

私の合格体験記が少しでもみなさんの役に立てば嬉しいです。

# 2023年度入試 合格体験記

立教大学理学部数学科	中村有那 (Ⅱコース・東松山市立東中学)
<p style="text-align: center;">「日々の積み重ね」</p> <p>受験勉強に力を入れ始めたのは高二的の夏休みでしたが、受験に向けての武器を増やしておきたいと思っていたので、定期テストや小テストは高一から手を抜かずに取り組んでいました。小テストだから適当にやれば良いと思っている人がいるかと思いますが、小テストは平常点に含まれるため、真剣にやっておいて損はないと思います。私は後からあの時ちゃんとやっておけばよかったと後悔しなくなかったので、毎回対策を怠らなく行っていました。勉強は家に帰ってからだと身が入らなかったので主に自習室を利用していました。他の生徒が真剣に勉強している姿を見て、「自分もやらないと」という気持ちになれます。ぜひ利用してみてください。</p> <p>最終評定は高一からの地道な努力の結果、良い評定をもらうことができました。そのため、指定校推薦を利用することにしました。条件に英検のスコアが必要な大学もあるので事前に調べて取得するなどしておいた方が良いでしょう。実力判定テストは範囲が広いので対策は大変でしたが、良い評定だったので不安を持たずに実力判定テストの勉強だけに集中することができました。</p> <p>できるだけ多くの不安要素を取り除いておくことが受験をする上での自信に繋がると思います。自分の努力を信じて頑張ってください。応援しています。</p>	

武蔵大学経済学部金融学科	田中誉雅 (Ⅲコース・さいたま市立宮前中学)
<p style="text-align: center;">「争奪戦で勝つためには」</p> <p>入学当初の私は、農大に進学するだろうと考えていました。高一の夏に配布されたこの進路の手引きを見て、多くの先輩方が、指定校推薦で私立大学に進学していることを知り、そこから指定校推薦で進学することを考え始めました。</p> <p>まずは、毎回の定期テストで取りこぼすことのないよう取り組みました。サッカー部に所属していて、通学にも1時間以上かかったので、バスと電車の時間を無駄にせず、英単語帳や日本史の教科書など、コンパクトな教材を開くことを習慣にしていました。帰宅後には食事と風呂を済ませ、家族との団らん・テレビを見たり、ゲームをしたりすることもありましたが、寝る前に必ず30分は勉強すると決めていました。習慣にすることで、定期テスト前の勉強もスムーズに行うことができました。取り組んだ分の結果が出せたことでモチベーションの維持にもつながりました。評定がきちんと取れるようになり、指定校推薦の評定基準を意識するようになりました。しかし、後輩の皆さん、評定だけが取れていても意味がありません。夏休み明けに行われる実力判定テストでとにかく、とにかく1点でも多く取る必要があります。なぜなら指定校推薦は、定員1枠の争奪戦だからです。3年の夏は、選手権予選を控えた中、部活後の自習室で、チームメイトとひたすら勉強したのは懐かしく良い思い出となっています。</p> <p>どのような受験方法で、第一志望はどこなのかを明確にし、今からできることを始めてみてください。コツコツ積み重ねたことは、自分の自信につながります。頑張ってください。</p>	